

決算説明会

2021年3月期 決算

2021年6月2日
株式会社 大真空 （証券コード：6962）
代表取締役社長 長谷川 宗平

株式会社 **大真空**



本日のご報告

 **2021年3月期 業績報告**

 **2022年3月期 業績予想**

 **第1中期経営計画の取り組み**

2021年3月期 業績報告

增收増益

単位：百万円

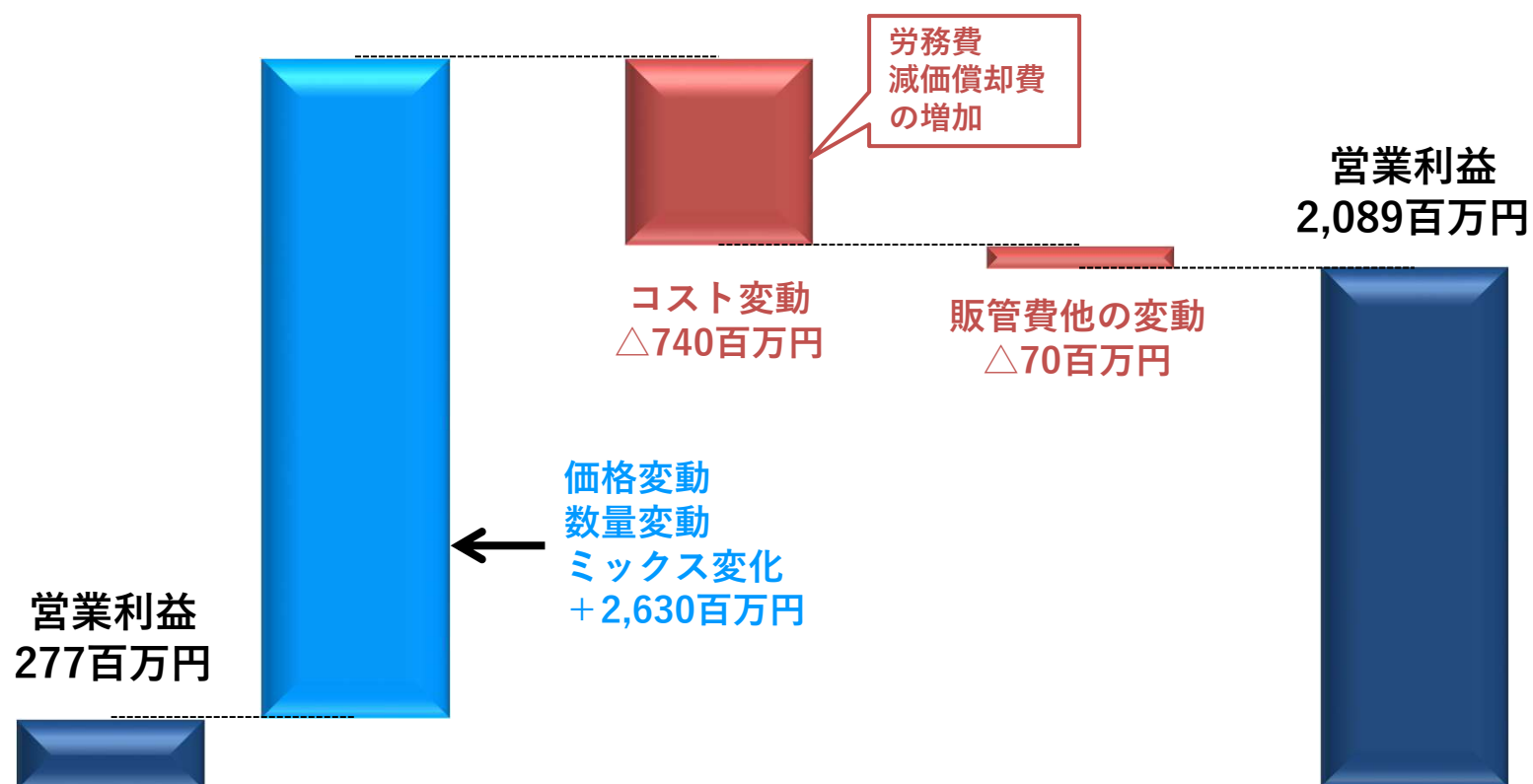
	2020年3月期	2021年3月期	前期比	
			増減	増減率
売上高	29,881	33,189	+3,308 ↑	+11.1%
営業利益	277	2,089	+1,812 ↑	+652.2%
経常利益	344	2,533	+2,189 ↑	+636.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	276	1,223	+947 ↑	+342.7%
USD平均レート（円）	108.70円	106.10円	△ 2.60 ↓	-

営業利益 増減分析(前期比)

2020年3月期

+1,812百万円

2021年3月期



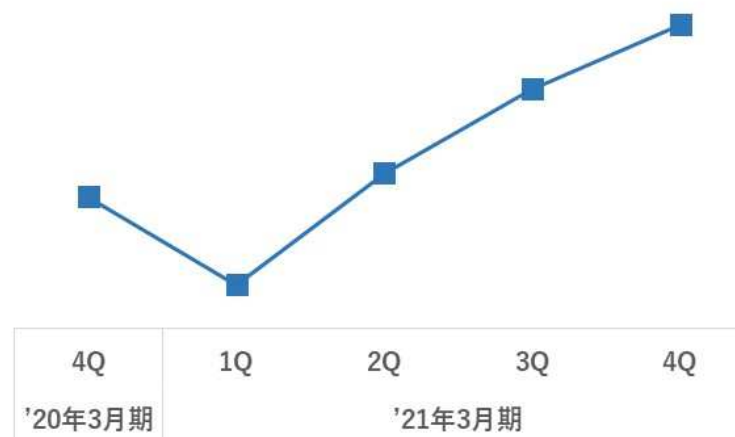
四半期 業績報告

增收增益

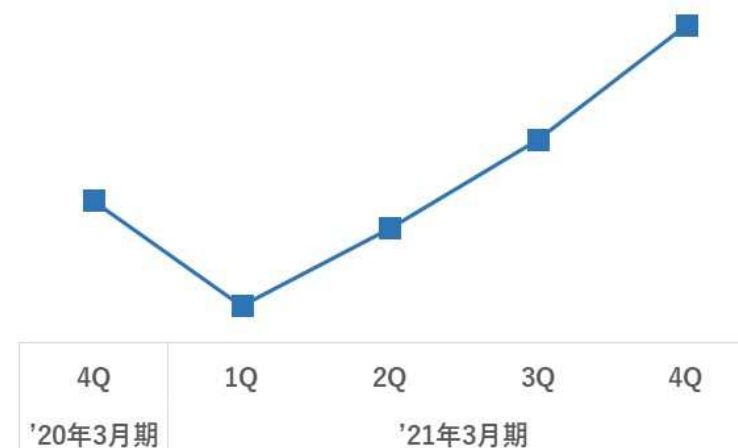
単位：百万円

	2021年3月期 10-12月	2021年3月期 1-3月	直前四半期比	
			増減	増減率
売上高	8,965	9,761	+796 ↑	+8.9%
営業利益	631	984	+353 ↑	+56.0%
経常利益	694	1,406	+712 ↑	+102.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	417	701	+284 ↑	+68.2%
USD平均レート（円）	104.51円	106.09円	+1.58円 ↑	-

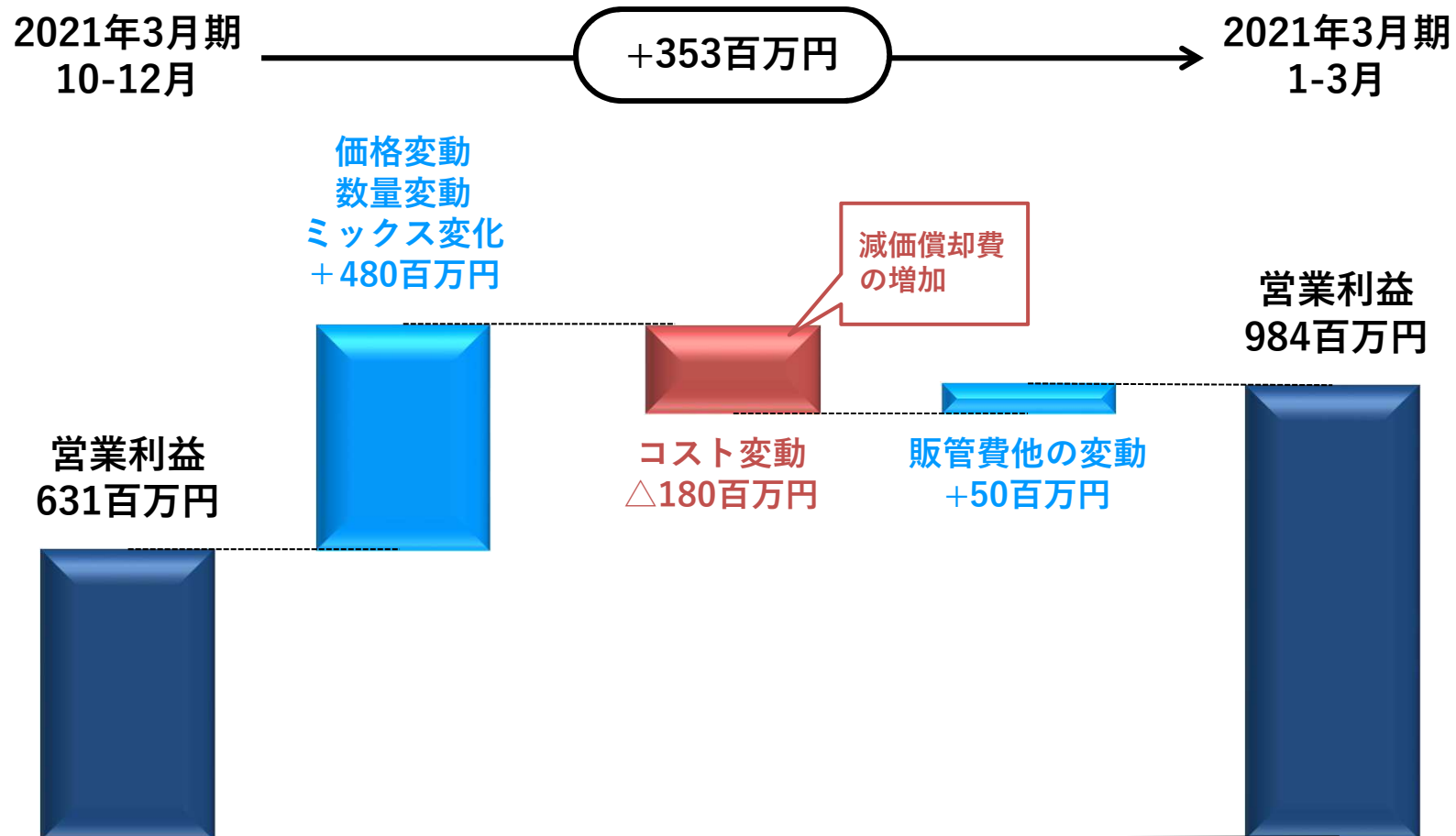
【売上高推移】



【営業利益推移】

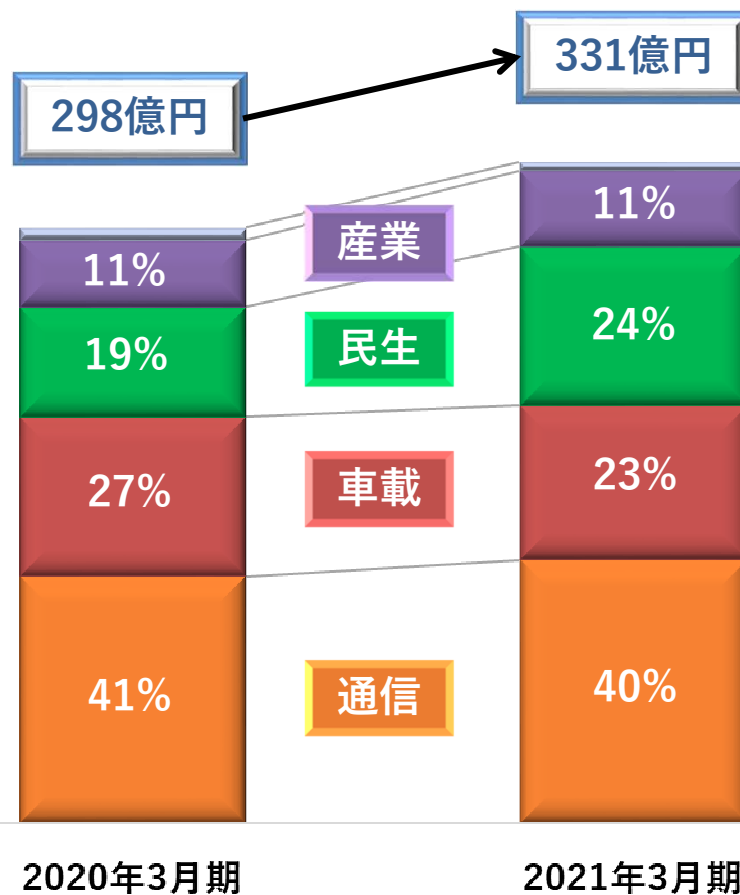


営業利益 増減分析(直前四半期比)



用途別販売実績（前期比）

前期比：11.1%増



産業 前期比+12%

- ・下期以降、FA/ロボット向けが回復

民生 前期比+45%

- ・巣ごもり需要でPC関連機器などが増加

車載 前期比△3%

- ・1Qは落ち込んだものの2Q以降は回復基調

通信 前期比+6%

- ・5GスマホやWiFi6向けが増加

設備投資／減価償却費／研究開発費

前期比

	2020年3月期	2021年3月期	単位：百万円 増減
設備投資	4,047	4,355	+308 ↑
減価償却費	2,582	2,921	+339 ↑
研究開発費	1,907	2,048	+141 ↑

主な設備投資

超小型水晶振動子増産設備
フォトリソ製造設備

主な研究開発

次世代高周波水晶デバイス
Arkシリーズ
大型水晶原石
フォトリソウエハの大判化

通期業績予想

単位：百万円

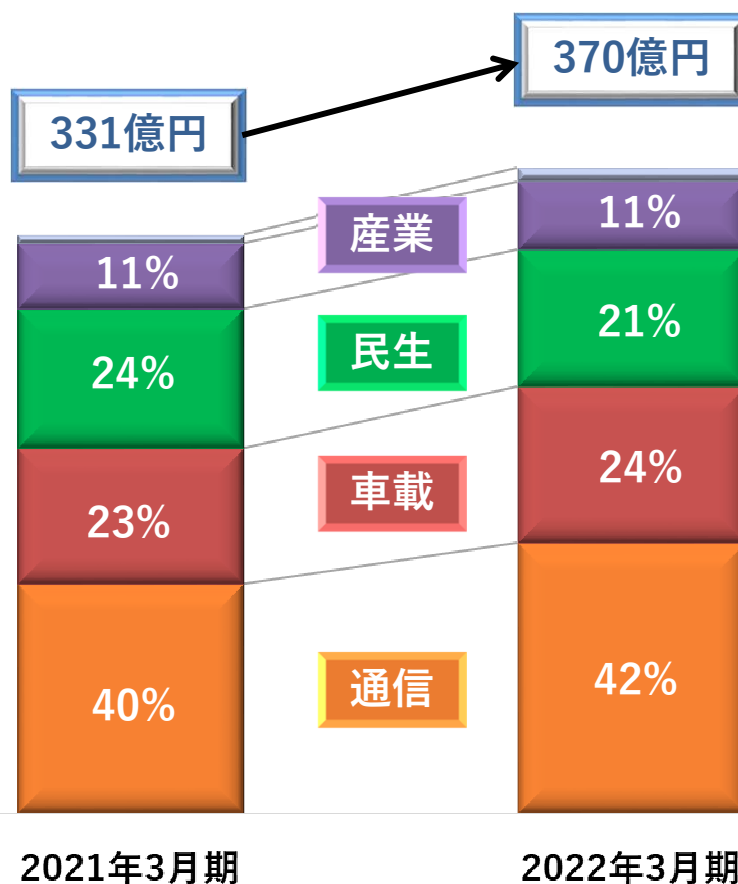
	2021年3月期 通期	2022年3月期 通期予想	増減	増減率
売上高	33,189	37,000	+3,811	+11.5%
営業利益	2,089	3,000	+911	+43.6%
経常利益	2,533	2,900	+367	+14.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,223	1,600	+377	+30.8%

USD平均レート（円）	106.10円	105.00円
-------------	---------	---------

設備投資	4,355	7,000	+2,645	+60.7%
減価償却費	2,921	3,800	+879	+30.1%
研究開発費	2,048	2,400	+352	+17.2%

マーケット見通し

前期比：11.5%増



産業 前期比+5%

・ 前期に引き続き、一定の水準で推移

民生 前期比△2%

・ 季節要因を見込んでいるものの、一定の水準で推移

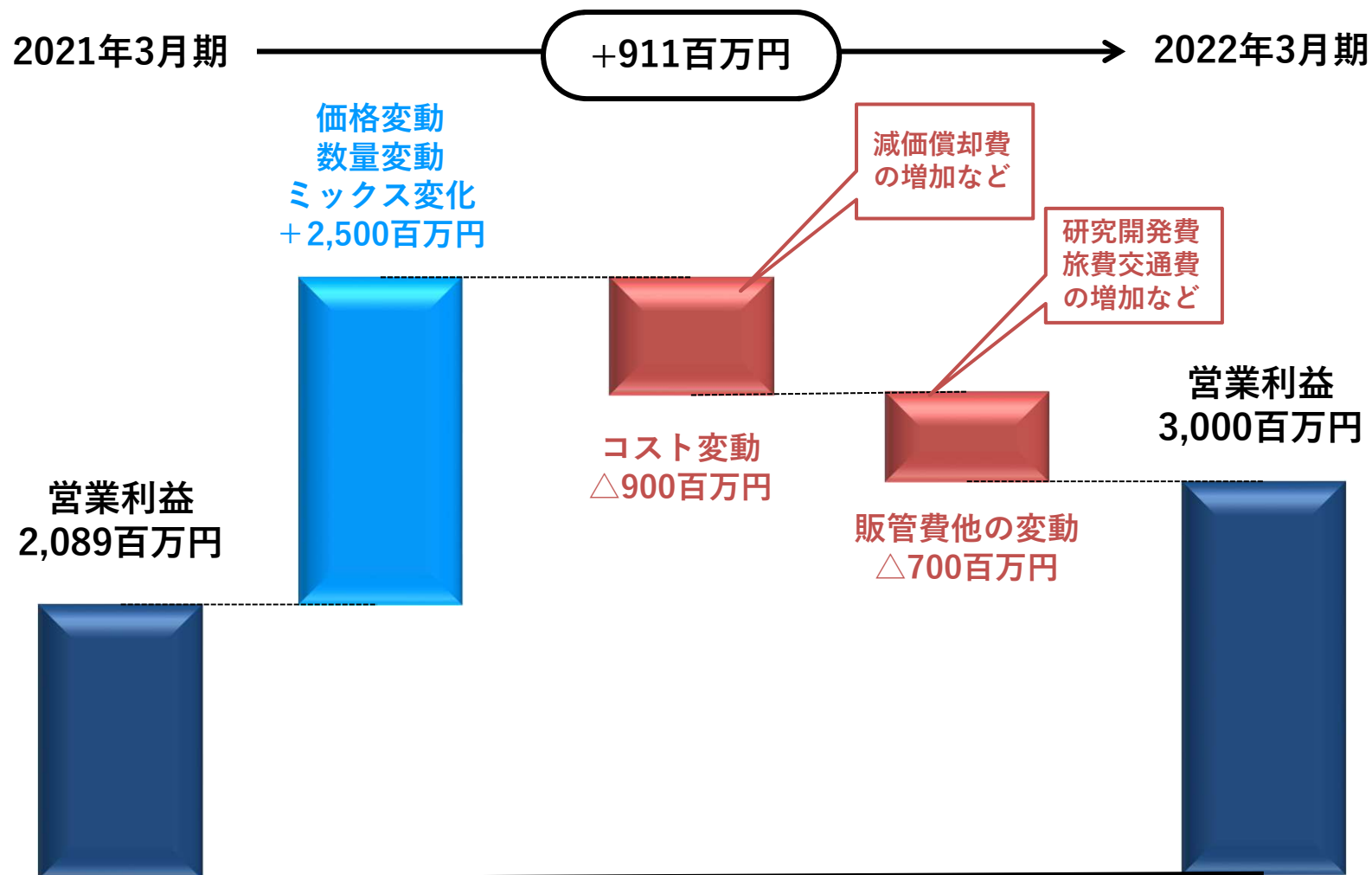
車載 前期比+15%

・ ADAS向けや電装化の進展とともにマーケットの拡大は継続する見込み

通信 前期比+17%

・ 5GスマホやWiFi6向けの増加が継続

営業利益 増減分析(前期比)



経営計画の連鎖

10年長期経営計画

「OCEAN+2戦略」の7つの基本戦略

**One
Cost
Element
Alliance
Niche
+1
+2**

Arkh.3Gの薄型化を武器とした「一社供給」
 Arkh新シリーズの世界最安直材費による「低コスト域への挑戦」
 育成／研磨技術を活かしたウエハ販売による「材料ビジネス」
 オープンイノベーション／コラボレーションによる「共創」
 ニッチな市場で安定的な利益を確保する「残存者利益」
 新たな結晶の育成に挑戦する「新たな結晶」
 新しい要素技術の確立による価値創造を目指す「新たなデバイス」

中期経営計画

第1中期 2022-2024年3月期
 基盤整備フェーズ

第2中期 2025-2027年3月期
 基盤確立フェーズ

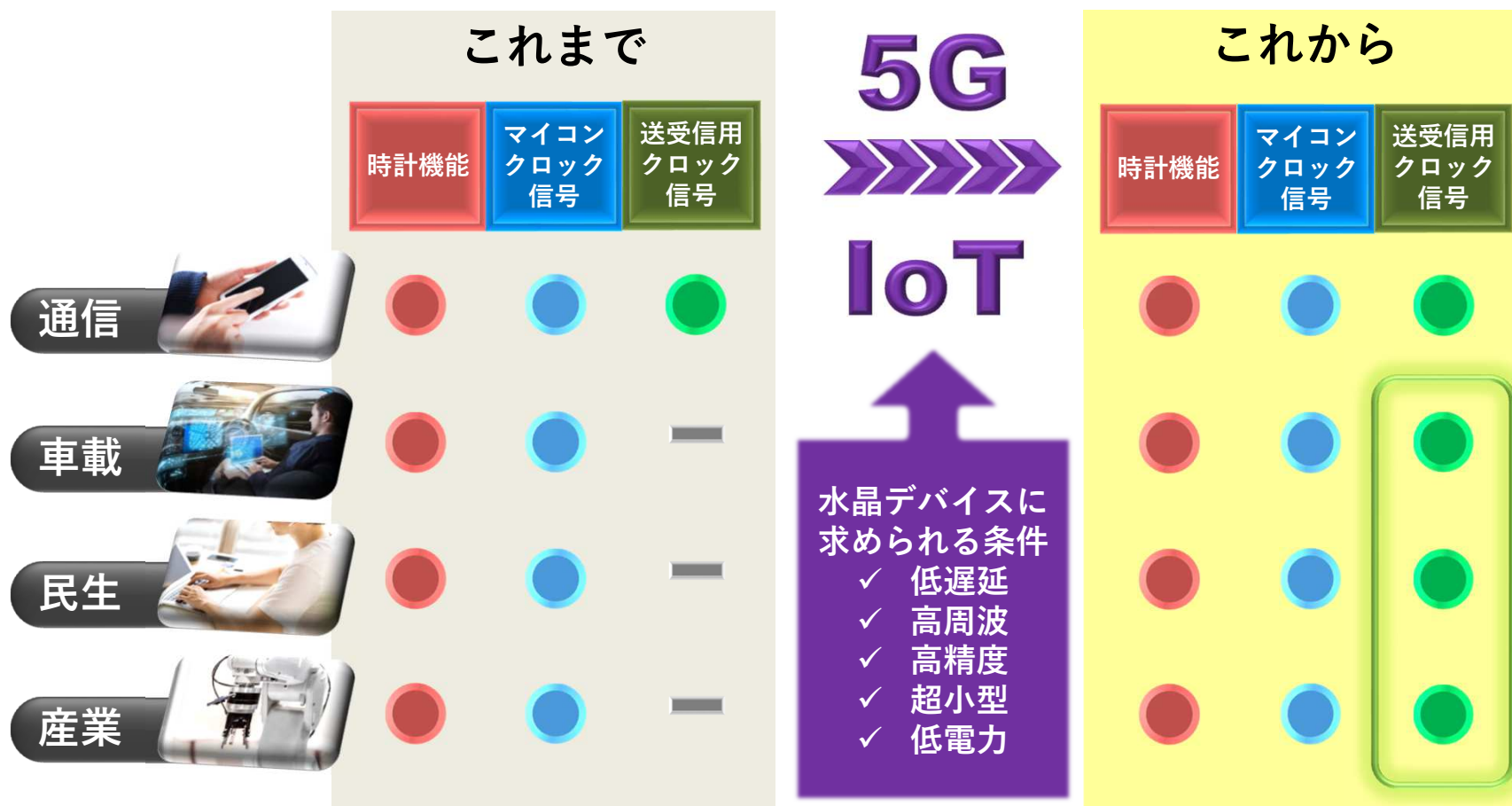
第3中期 2028-2030年3月期
 成長発展フェーズ

2022年3月期

第1中期経営計画「基盤整備」のスタート
OCEAN+2戦略を実行し、
 エレクトロニクス社会/サステイナブル社会へ貢献

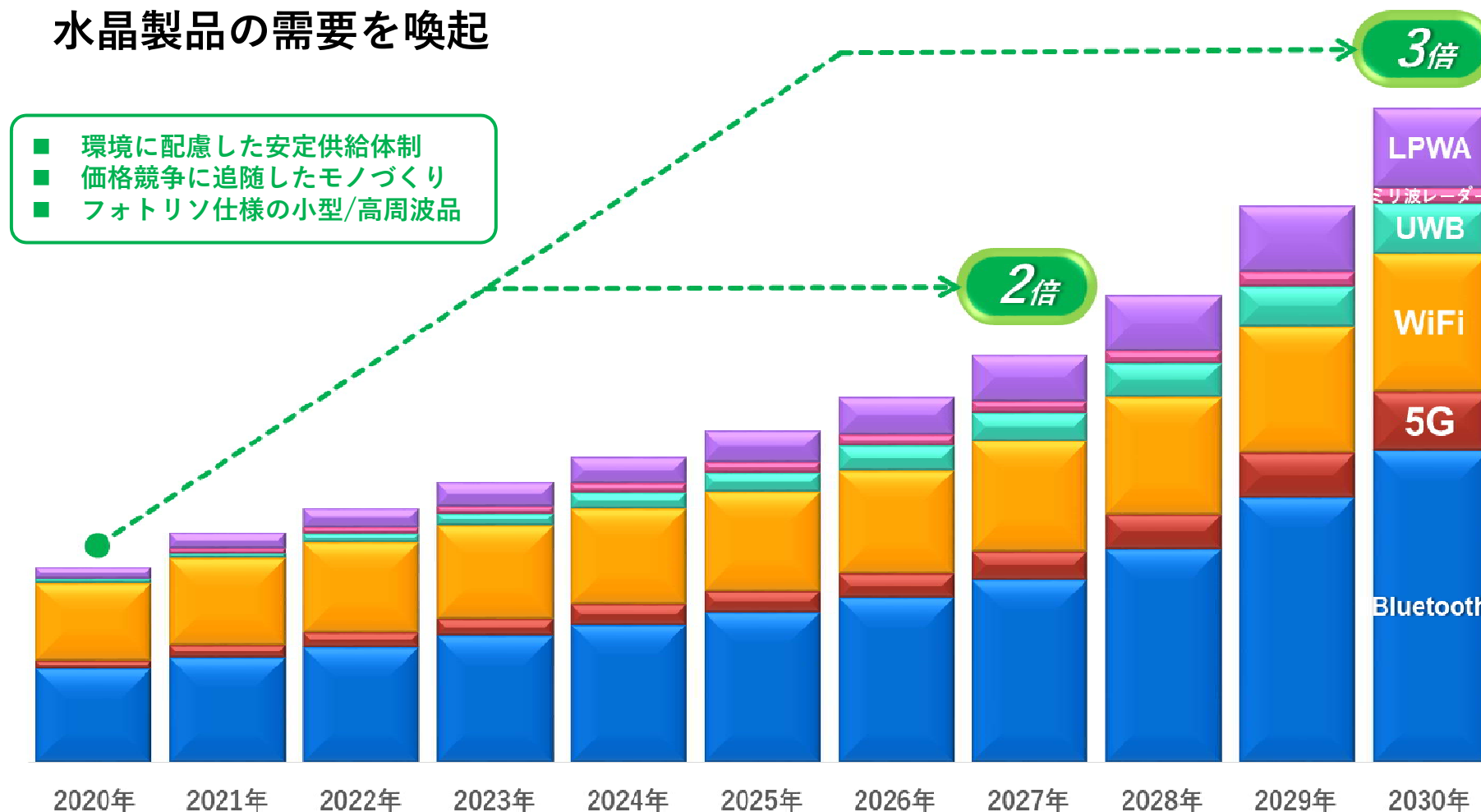
市場動向

あらゆる市場に通信機能が融合



通信方式別 水晶市場規模

市場カテゴリーを超え、通信機能を搭載する規模が拡大
水晶製品の需要を喚起



※富士キメラ、テクノシステムリサーチより、当社推定

求められる水晶製品

ボリュームゾーン

Bluetooth/BLE
TWS/ウェアラブル
マイコンクロック

超小型水晶振動子
超小型音叉型水晶振動子
kHz水晶発振器/TCXO

 Arkh.4G

価格

通信高精度市場【成長有望】

5G

サーミスタ内蔵水晶振動子 76.8MHz

WiFi

LPWA

UWB

電力メーター

超小型水晶振動子

kHz-TCXO

 Arkh.3G
派生モデル

特性 価格

基地局／ネットワーク向け【高付加価値】

基地局

光ネットワーク

高精度TCXO/OCXO
低位相VCXO

差動水晶発振器

 Arkh.5G

特性 価格

車載通信向け【高付加価値】

ワイヤレスバッテリー
マネジメントシステム

セルラーV2X

超小型水晶振動子
超小型音叉型水晶振動子

サーミスタ内蔵水晶振動子

 Arkh.Series

価格

特性 価格

業界環境と当社の対応

あらゆる分野に通信機能が搭載
水晶製品の需要増に期待

市場

セラミックパッケージ
小型化の限界

周辺

業界

製品差別化難しく過当競争へ
機種毎に製造装置が必要で非効率
結果的に経営が不安定

水晶デバイスのマーケットは確実に拡大
これまでと一線を画す製品、製法で対応

開発製品

- Arkh.3G 本格量産
- Arkh.4G/5G 生産体制確立
- Arkhシリーズ拡充
- 完全自動化プロセス開発
- 環境への配慮

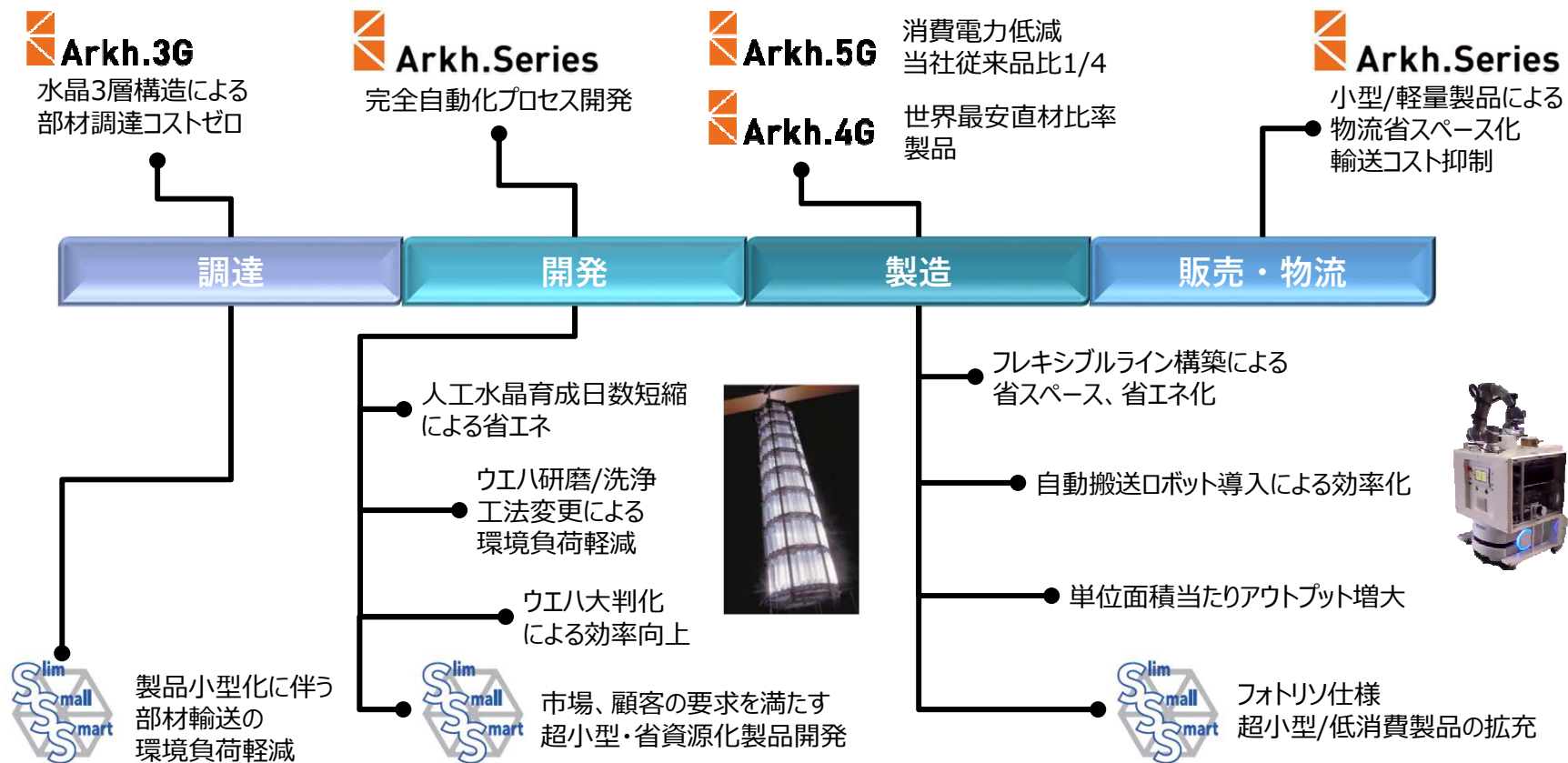
共通

- クリーンルーム増床
- フォト生産2拠点体制
- フォトウエハ大判化
- フォトリソ品の能力増強
- 環境への配慮

既存製品

- フレキシブルラインの構築
- コスト競争力の最大化
- 安定供給体制とBCP対応力強化
- 環境への配慮

大真空バリューチェーンとSDGs



環境配慮

BCP対応

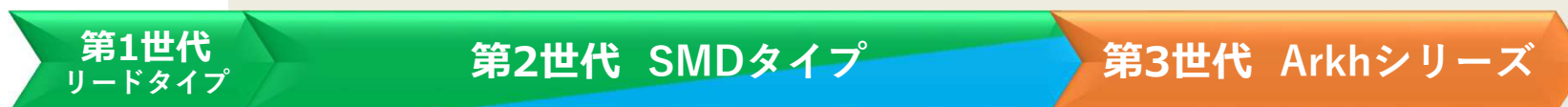
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

大真空の成長戦略



- | | | |
|------------------|---|--|
| 加高電子タイ
第2工場稼働 | <ul style="list-style-type: none"> ● 徳島クリーンルーム増床 ● フォト生産2拠点体制 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本格量産／競争力強化 ● 量産立上げ ● 完全自動化プロセス開発 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 組み立てライン数拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ● 組み立てライン数拡充 |

第2世代 水晶市場拡大に応える、モノづくりの概念刷新

過去 投資が高み、設置場所にも苦慮
アウトプット増えるも採算性は期待できず

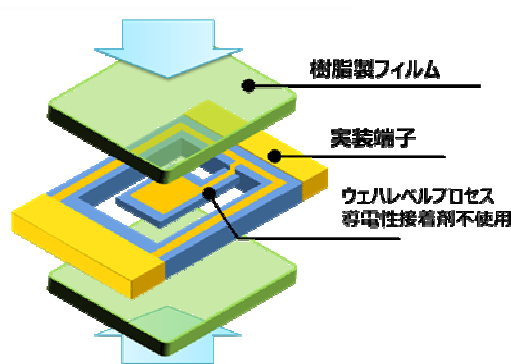


将来 現状生産拠点のスペースでライン設置可能
単位面積当たりアウトプット増

- 多機種大量生産が可能なフレキシブルライン
- ラインの多拠点展開によるBCP対応ライン
- 投資&設置面積抑制による環境配慮型ライン

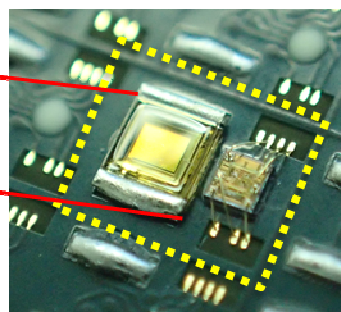
新製品

Ark.4G モールド発振器

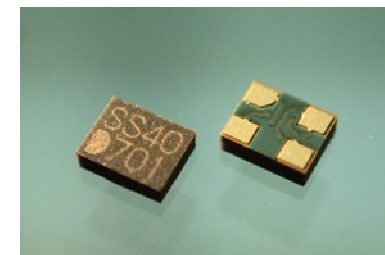


Ark.4G
振動子

【基板実装】



Ark.4Gモールド発振器



特長

- Arkh.3Gの基本技術を踏襲
- 新パッケージング技術の採用
- 直材費を大幅に低減
- 世界最安水晶デバイスに照準

ターゲット市場

ボリュームゾーンの
市場全般

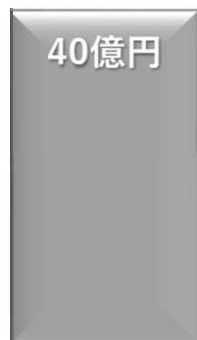
スケジュール

2021年～ サンプル対応

フトリソ製品売上高比率



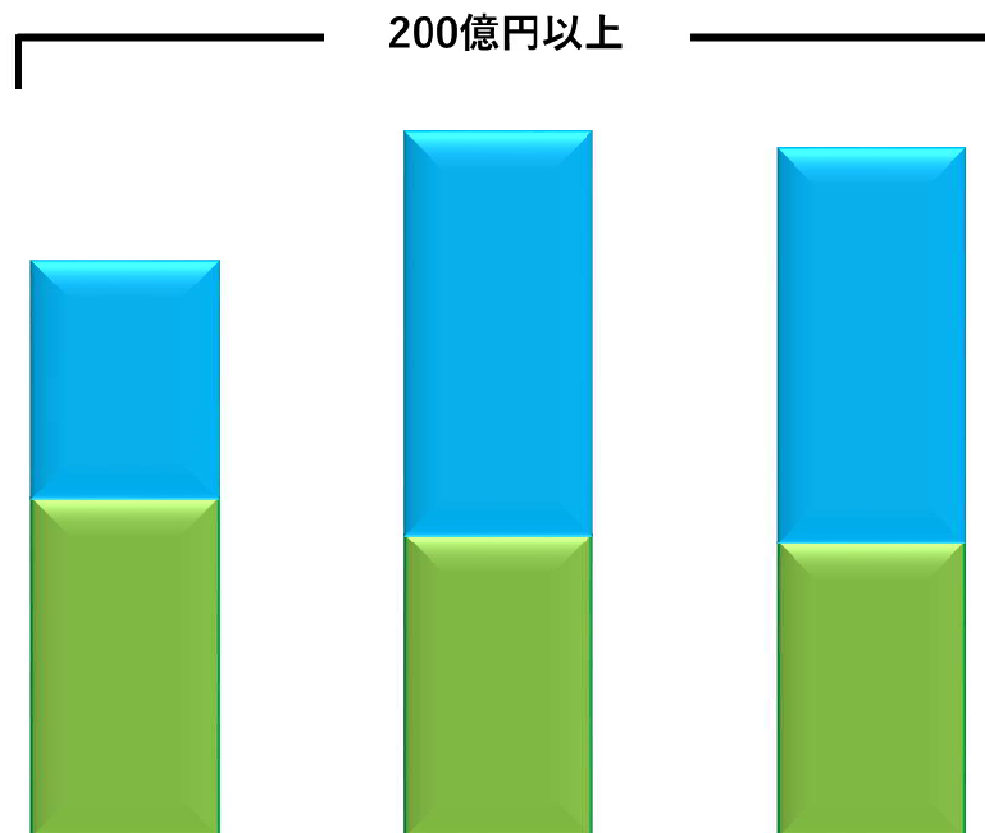
設備投資推移



'20年3月期



'21年3月期



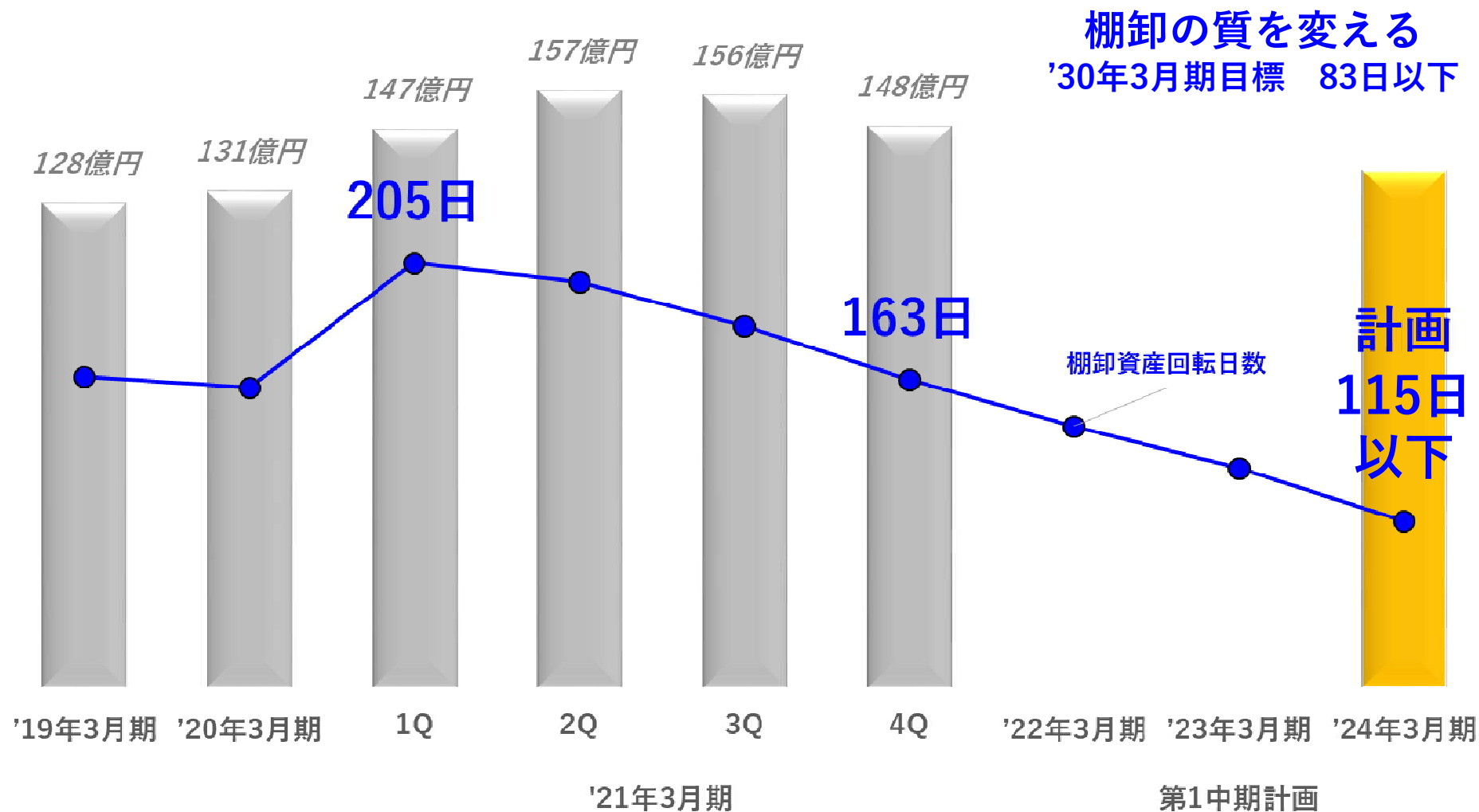
'22年3月期

'23年3月期

'24年3月期

第1中期計画

棚卸資産推移



第1中期経営計画

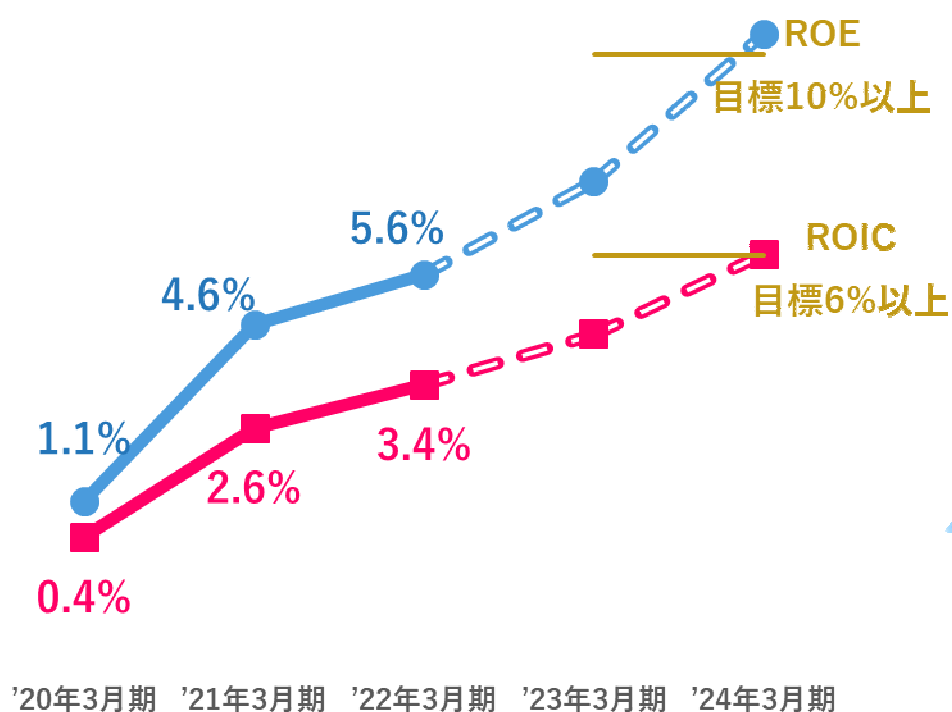
単位：百万円

	'22年3月期	'23年3月期	'24年3月期
売上高	37,000	41,000	45,500
営業利益	3,000	4,000	5,700

さらなる企業価値向上を目指し
第1中期計画より経営指標にROICを採用

OCEAN+2戦略、第1中期成長戦略の実行

ROE ROIC

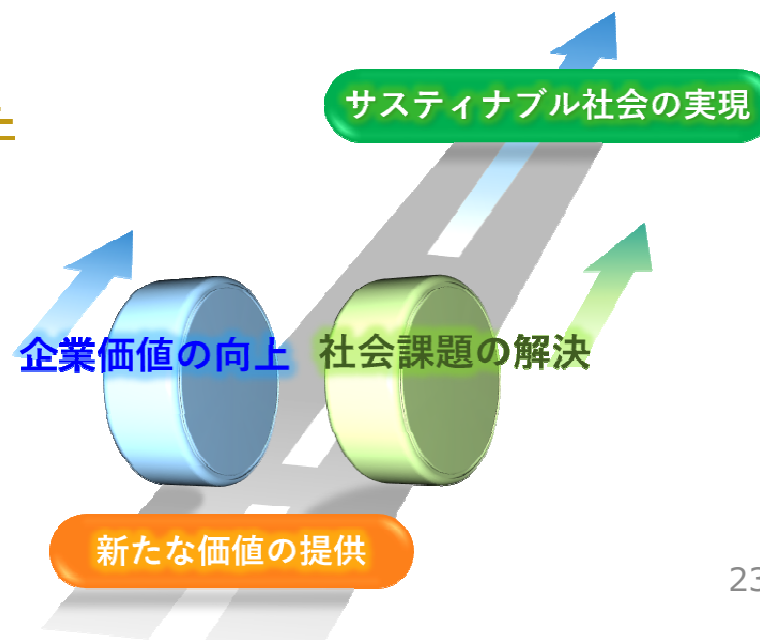


'20年3月期 '21年3月期 '22年3月期 '23年3月期 '24年3月期

実績

第1中期計画

第1中期最終年度目標
ROIC 6%以上 (税引後ROIC)
ROE 10%以上



信 頼

世界中すべてのお客様に「信頼」でお応えする
それが私たち大真空の理念です